

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

ニュージーランド景気は拡大期へ (Asia Weekly (3/22~3/26))

~台湾は韓国よりも早く金融緩和の見直しに入る可能性~

発表日: 2010年3月29日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/22 (月)	(台湾) 2月失業率 (季調済)	5.65%	5.67%	5.73%
	(香港) 2月消費者物価 (前年比)	+2.8%	+2.1%	+1.0%
3/23 (火)	(シンガポール) 2月消費者物価 (前年比)	+1.0%	+1.0%	+0.2%
	(前月比/季調前)	+0.4%	+0.6%	+0.7%
	(台湾) 2月鉱工業生産 (前年比)	+35.17%	+37.75%	+70.08%
	2月商業販売額 (前年比)	+9.48%	+15.50%	+13.71%
3/25 (木)	(ニュージーランド) 10-12月期実質 GDP (前年比)	+0.4%	+0.4%	▲1.4%
	(前期比/季調済)	+0.8%	+0.8%	+0.3%
	(台湾) 金融政策委員会 (政策金利)	1.25%	1.25%	1.25%
	(香港) 2月輸出 (前年比)	+28.5%	+25.3%	+18.4%
	2月輸入 (前年比)	+22.4%	+25.0%	+39.5%
3/26 (金)	(ニュージーランド) 2月輸出 (十億 NZ ドル)	3.32		3.15
	2月輸入 (十億 NZ ドル)	3.00		2.89
	(韓国) 10-12月期実質 GDP (前年比/確報)	+0.2%		+3.2%
	(前期比/季調済/確報)	+6.0%		+1.0%
	(シンガポール) 2月鉱工業生産 (前年比)	+19.1%	+13.7%	+39.2%
	(前月比/季調済)	+5.9%	▲4.0%	+11.0%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[ニュージーランド] ~3 四半期連続プラス成長で景気拡大続く。内需の底堅さが景気を牽引~

25日に発表された10-12月期の実質GDP成長率は、前期比(季調済)+0.8%と前期(同+0.2%)から伸びが拡大し、3四半期連続のプラス成長となった。前年同期比も+0.4%と6四半期ぶりにマイナス成長を脱しており、本格的な景気回復期入りを果たした。消費や公共投資など内需の拡大が牽引役となり、景気の底離れが進んだ。また、豪州やアジアなどの景気拡大を背景に輸出も回復が進んでいるが、前期比では▲0.9%と前期までの急回復から一服している一方、旺盛な内需を反映して輸入は同+6.0%と大幅な伸びを示しており、純輸出の成長率寄与度は大幅マイナスとなっている。それにも拘らずプラス成長を続ける要因として、前期まで続いた在庫調整が終了したことが挙げられ、今後も在庫復元による成長率押し上げが続くと期待される。

また、26日に発表された2月の輸出については33.2億NZドルと前月(31.5億NZドル)から増加した。内需の好調を反映して2月の輸入も30.0億NZドルと前月(28.9億NZドル)から拡大したが、貿易収支は+3.21億NZドルと前月(同+2.63億NZドル)から黒字幅が拡大している。輸出の堅調な拡大を背景に、今後も同国経済は緩やかな拡大を続けると予想される。

図1 NZ 実質 GDP 成長率の推移(前期比)

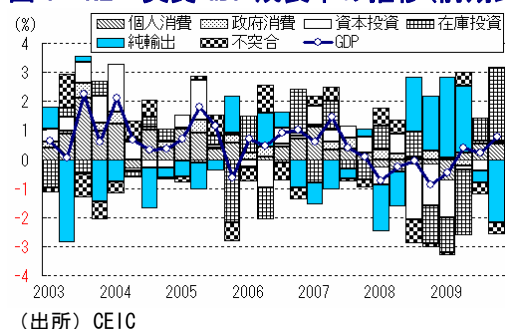


図2 NZ 小売売上高の推移

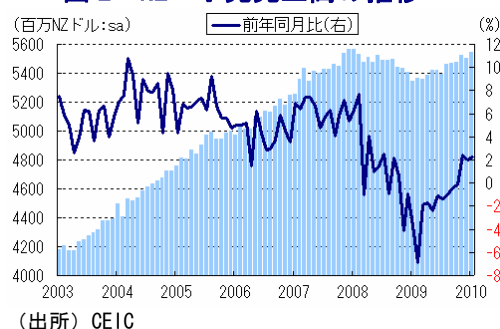
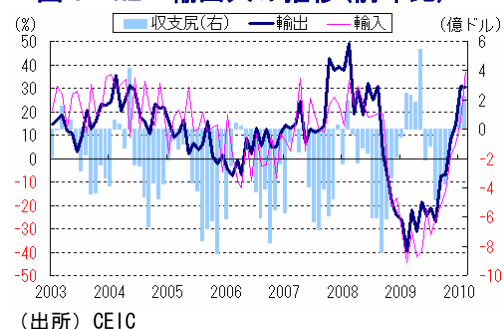


図3 NZ 輸出入の推移(前年比)



[台湾] ～雇用・生産の改善続くも政策金利据え置き。量的緩和見直しの言及で金融緩和に修正の動き～

22日に発表された2月の失業率(季調済)は5.65%と前月(同5.73%)から0.08p改善した。雇用者数も前月比+2.4万人増加し、昨年3月を底に増加基調が続いているほか、失業者数は前月比▲8千人と昨年8月をピークに減少している。昨春以降中国向け輸出の回復を背景とする生産の急拡大を受けて雇用環境が大きく改善しており、雇用の改善が個人消費を盛り上げ、さらに生産回復が設備投資を促す好循環となっており、10-12月期の実質GDP成長率は前期比年率+18.0%の大幅な景気拡大を示した。1月以降も同様の動きが続いていることから、同国経済は年明け以降も高成長を続けていると期待される。

23日に発表された2月の鉱工業生産は、前年同月比+35.17%と前月(同+70.08%)から伸びが大きく鈍化した。しかし、前月比(季調済)は+4.1%と前月(同+1.5%)を上回る伸びをみせており、昨年2月を底に生産は拡大基調が続いている。春節の影響で2月の輸出額は前月比で大幅な減少をみせたが、輸出受注は高水準に留まっていることから、先行きの輸出は堅調を維持すると予想する。また、在庫率も低下し続けていることから、3月以降も拡大基調は続くと思われる。

23日に発表された2月の商業販売額は、前年同月比+9.48%と前月(同+13.71%)から伸びが鈍化した。春節の影響で小売売上高は前年同月比+17.46%と大幅な伸びを示した一方、卸売上高は同+6.25%と、休暇による商取引縮小の影響を受けた。特に、馬政権発足以降の中国本土との関係改善で本土からの旅行者が拡大しており、中国人旅行者の旺盛な消費も小売売上を押し上げている。今後も経済協力枠組み協定(ECFA)締結に向けた取り組みが加速化することで経済関係が一段と緊密になると見込まれ、小売売上などを促すと期待される。

中国(台湾)中央銀行は25日、定例の金融政策決定会合を開催し、政策金利を5回連続で1.25%に据え置いた。海外経済の回復に伴って国内生産は大きく回復したが、消費や投資は回復途上にあること、国際商品市況の動向に不透明感があることから、暫くは現行水準で景気刺激を続けるとしている。一方、金融安定化という所期の目的は達成されたとして、量的緩和については見直しを示唆している。2月の消費者物価は前年同月比+2.35%に急上昇しているが、これは原油価格の急上昇による影響が大きく、前月比(季調済)では+0.31%

に留まり、コア物価は前月比▲0.09%であることから全般的な物価上昇に繋がる見方を否定した。一方、過剰流動性により株式や不動産など資産市場に資金が流入して資産バブルの発生懸念が出ていることから、今後は金融緩和の見直しが進むと予想される。

図4 台湾 雇用環境の推移

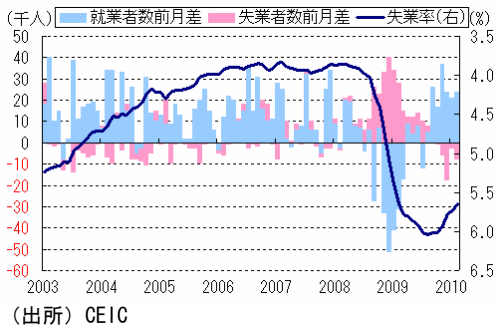


図5 台湾 鉱工業生産の推移

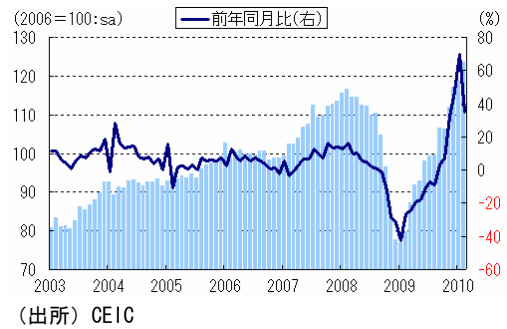


図6 台湾 輸出入の推移(前年比)

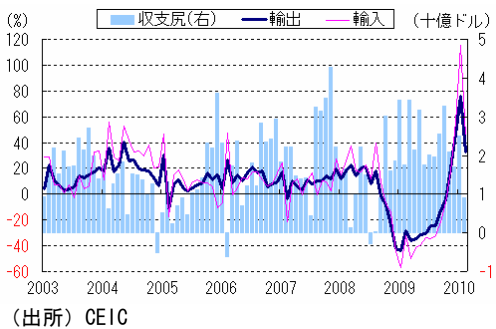


図7 台湾 在庫率の推移



図8 台湾 商業販売額の推移

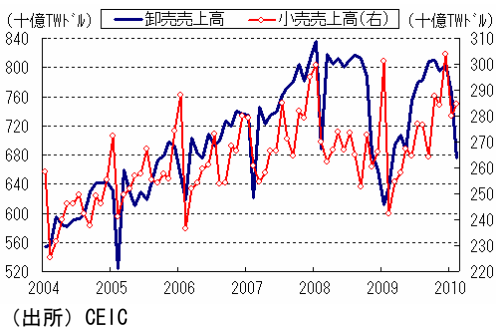


図9 台湾 旅行客の推移

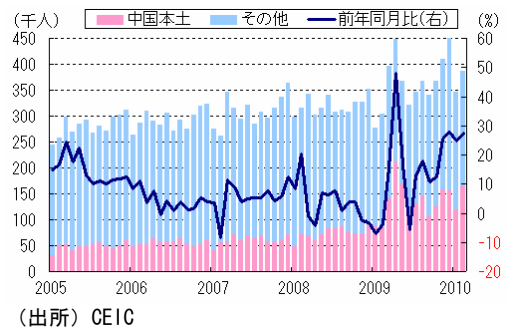


図10 台湾 政策金利の推移



図11 台湾 消費者物価の推移(前年比)

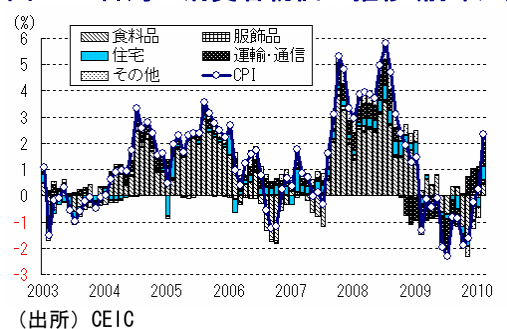
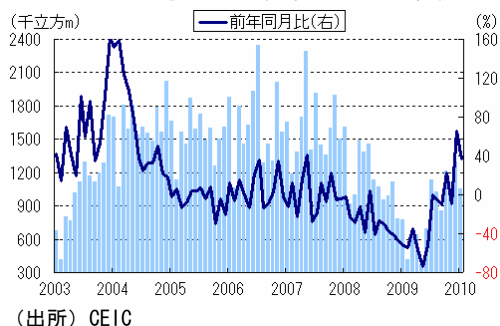


図 12 台湾 住宅建設許可の推移



[韓国] ~10-12月期 GDP 統計確報は速報値と不変も内需が上方修正。底堅い景気拡大が続く見通し~

26日に発表された10-12月期の実質GDP成長率(確報)は、前期比(季調済)+0.2%、前年同期比も+6.0%と速報値と同じ伸びとなった。ただし、速報値で前期比マイナスとされた個人消費はプラスに修正されたほか、設備投資も上方修正されるなど、内需は堅調に拡大していることが示された。また、頭打ちが懸念されていた輸出も前期比のマイナス幅が縮小された一方、内需の堅調を反映し輸入が大幅に上方修正されたため、内需の上方修正分などが相殺された。昨年末以降雇用環境は急速に悪化しているものの、個人消費は堅調に推移しており、中国向けを中心に引き続き輸出の拡大が期待されることから、景気は底堅さが続くと思われる。

図 13 韓国 実質 GDP 成長率の推移(前期比)

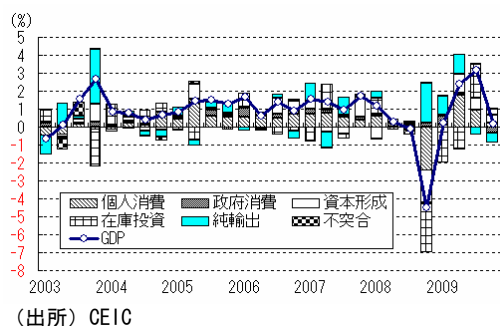


図 14 韓国 雇用環境の推移

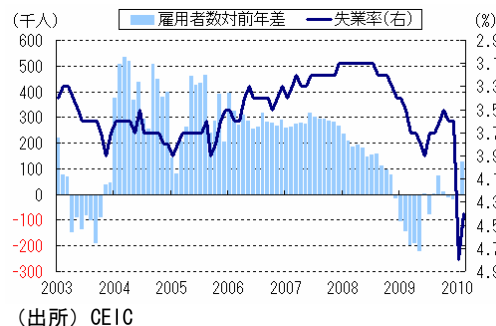


図 15 韓国 小売売上高の推移

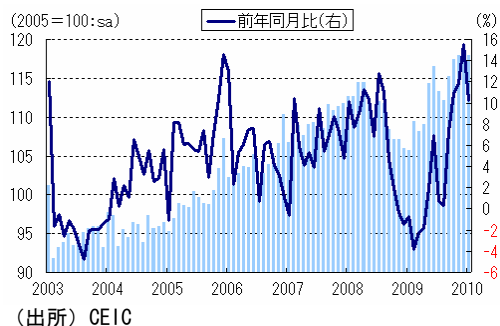
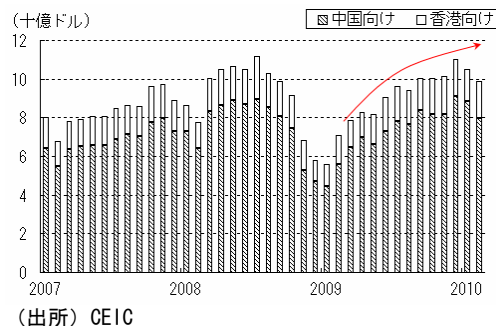


図 16 韓国 中国・香港向け輸出額の推移



以上